

琉球紅型（りゅうきゅうびんがた）とは

紅型（びんがた）は沖縄の豊かな自然や特色を鮮やかな色彩や図柄で表現した、最も代表的な伝統的手染物です。

起源は15世紀ごろまで遡ることができます。

中国やインド、ジャワの更紗などの染色技術を基に紅型が生まれたとも言われています。

尚王朝初期、紅型は尚一門の階級を示す役割を持っており、王族だけに許された模様、構成、そして色。これらの手のこんだ豪華で美しい衣装でした。戦前までは琉球衣装として、戦後には和装として多く染められ、戦前以上に全国へと広がっていきました。

薩摩侵略、琉球処分、太平洋戦争など紅型は歴史の中で何度も消えかけています。

沖縄の文化や技術はその時代の荒波を乗り越えて現在に繋いで、着物や帯など現在の形に進化してきました。

紅型は沖縄の歴史そのものと言っても過言ではありません。